



もぎたて通信

令和8年4月30日
長崎市立茂木小学校
発行 校長 松尾伸章

ホームページアドレス www.nagasaki-city.ed.jp/mogi-e/

見渡す山が萌黄色に輝いてきました。それぞれの樹々が若芽を出し、それぞれの色を主張しています。青柳、花萌黄、若葉色、若菜色、若緑、裏葉色、薄柳、若芽色、黄浅緑など、微妙に異なる緑色にそれぞれ名前があります。昔から日本では、緑系の色を80色以上、青系の色も70色ほど、わずかな違いを見分けながら、呼び名をつけてきました。山の様子を見てみると、緑の多様性に改めて気付かされる5月です。

先日は、授業参観・懇談会及びPTA総会に、ご来校をいただきありがとうございました。子供たちはいつも頑張っていますが、やはり保護者の皆様に見てもらうことで、子供たちのやる気はさらに向上します。お家の人に頑張っているところを見てもらって、そして家に帰って褒めてもらいたいのが子供です。お家の人に認めてもらうことで、自己肯定感が高まり、今後の学習への取組方がますます向上します。今年度も、機会あるごとに子供たちの頑張りを見に来ていただけるようお願いいたします。

5月は、運動会の練習にも取り組みます。これから暑い日も増えてくることと思います。体調管理には、十分ご配慮ください。子供たちが、毎日元気に登校できることを願います。

【5月の行事予定】

- 1日(金) 安全の日 学力調査児童質問紙(6年) 家庭訪問3日目
- 2日(土)
- 3日(日) <憲法記念日>
- 4日(月) <みどりの日>
- 5日(火) <こどもの日>
- 6日(水) <振替休日>
- 7日(木) 家庭訪問4日目 代表委員会 眼科検診(1・4・6年)
- 8日(金) 家庭訪問5日目
- 11日(月) さわやかタイム 運動会練習開始 内科検診(5・6年)
ぐんぐんはじめの会
- 12日(火) 尿検査1回目 内科検診(3・4年)
- 13日(水) 内科検診(1・2年) 音楽集会 運動会全体練習
- 14日(木) 耳鼻科検診(1・3・5年)
- 15日(金) 運動会全体練習(縦割り種目)
- 17日(日) ※家庭の日 (茂木中学校運動会)
- 19日(火) 読書の日 運動会係打合せ
- 20日(水) もぎの木タイム 尿検査2回目
- 21日(木) 運動会全体練習
- 22日(金) 運動会会場設営(5校時)
- 24日(日) 運動会(8:45開始) ※雨天延期日; 6月1日(日)
- 25日(月) <運動会代休日>
- 26日(火) クラブ活動編制 長大留学生との交流(6年)
- 27日(水) もぎトーク 歯科検診
- 29日(金) 体力テスト 尿検査3回目
- 31日(日) 運動会予備日

【歓迎集会&遠足】

4月17日（金）、歓迎集会&遠足を実施しました。

初めに、体育館で歓迎集会をしました。6年生に手を引かれ、花のアーチをくぐりながらかわいい1年生が入場してきました。茂木小のみんなが拍手とえがおで迎えていました。1年生は、改めて担任に名前を呼んでもらい、元気な声でしっかりと返事し、「よろしくお願いします」と上手に挨拶することができました。



そして、学年ごとに学級紹介をしたあと、誕生月で集まってダンスをしたり、ジャンケンに負けると小さくなっていく新聞紙に、二人組で協力して乗るゲームをしたり、みんなで楽しく活動しました。さらにみんなえがおいっぱいになりました。

その後、全員で学校周回コースの遠足に出発しました。曇り空で暑くもなく寒くもなく歩くのにはちょうど良かったです。子供たちは、全員最後までしっかりと歩き通すことができました。



学校の運動場に着いてしばらくすると、お弁当の時間となり、またみんなえがおいっぱい。キャラ弁などもあり、お家の方の愛情がたくさん詰め込まれたお弁当はとても美味しそうでした。やはりお家の方愛情弁当は、子供のお腹と心を満たす一番のエネルギー源です。

お弁当の後は、6年生を中心に、縦割り班での遊びも楽しみました。1年生も、すっかり茂木小学校の仲間入りができたようです。



この歓迎集会・遠足の間、6年生は1年生にずっと付きっ切りでした。歩くときは手をつなぎ、やさしく声をかけ、弁当も一緒に食べ、上手にサポートしていて頼もしかったです。

みんな仲良く楽しく、何ともあたたかく、えがおいっぱい！茂木笑楽校でした。

『若菜川を眺めて』

まだ我が子が中・高生の頃で、もうずいぶん前のことになってしまいましたが、家族で外出に出かけた時のことです。その店にちょうど同じような家族連れが2組入ってきました。それぞれ、おそらく高校生ぐらいと中学生ぐらいだと思われる子供がいて、休日の夜の家族団らんなのでしょう、両親と一緒に食事に来ていました。その高校生ぐらいと思われる子は、どちらも手に携帯（スマホ）を持っていました。

一方の子は、席に着くと同時に携帯をポケットにしまいましたが、一方の子は、変わらず携帯をいじっていました。ポケットにしまった子は、両親や妹と笑顔で会話を楽しんでいるようでした。しかし、携帯から目を離さない方の家族は、会話ありません。それどころか、中学生ぐらいの子も携帯を取り出して、いじり始めていました。

今では、それも当たり前になりつつあることかもしれませんが、古い人間の私には残念でなりません。コミュニケーションツールとしての携帯（スマホ）が、目の前の大切な人とのコミュニケーションを妨げていることを強く感じたことを今でも覚えています。

GIGA スクール構想により、学校では子供たちに一人一台端末（クロームブック）が整備され、今では子供たちがクロームブックを使用して学習することも当たり前になりました。クロームブックは、学習のためのツール（道具）として、とても便利で、必要なものです。さらに、子供たちがこれからの未来を生き抜くためには、ICT の活用能力を高める必要があることは言うまでもありません。

しかし、クロームブックも携帯（スマホ）も使い方を間違えれば、とても危険なツール（道具）になってしまうことも忘れてはなりません。道具には、どの道具にも、時と場に応じた使い方があるはずです。子供たちに、それを教えていかなければならないのは、やはり私たち大人なのだ、と若菜川を眺めながら改めて自分に問い直しています。